

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 初期臨床研修医が体験する倫理的課題の検討
-「研修医の倫理的ジレンマ提出箱」の分析-

[研究責任者] 岡崎市民病院 看護局 看護長補佐 岡田 知之

[研究の背景]

医療の現場では、患者さんの権利を守り、安全で安心できる医療を提供するために、「倫理的な判断」がとても重要になります。とくに、初めて病院で働き始める若手の医師（初期臨床研修医）は、実際の患者さんと関わりながら、医療の技術だけでなく、「正しいかどうか」「どう対応すべきか」といった倫理的な考え方や判断力も学んでいく必要があります。しかし、研修医はまだ経験が少なく、知識もこれから身につけていく段階です。また、忙しい毎日の中で、いざ倫理的な問題に直面しても、どう判断すればいいのか迷う場面も多くあります。

これまでの医療倫理の教育では、講義やロールプレイ（模擬体験）などが中心でしたが、実際の医療の現場で研修医がどんな倫理的な問題に直面し、どう考えて行動しているかについては、あまり詳しく分かっていませんでした。こうした倫理的な問題への対応は、本人の価値観、職場の雰囲気、指導する医師のかかわり方などにも強く影響を受けます。そのため、研修医自身の体験や感じたことを丁寧に聞き取り、どんな困難があるのか、どのように倫理的な判断をしているのかを深く理解することが大切です。

こうした考え方から、当院では、「研修医の倫理的ジレンマ提出箱」という取り組みを行っています。これは、研修医が日々の診療の中で「どうすればよいか迷った」「モヤモヤした」と感じた出来事を振り返り、自分なりに倫理的に考えたうえで、その内容を提出してもらうというものです。その後、指導医や臨床倫理の専門チームが内容を確認し、研修医にフィードバック（助言）を行います。この活動を始めて 2 年がたち、研修医の体験談が多く集まってきた。

今回の研究では、この「研修医の倫理的ジレンマ提出箱」で集まった内容をもとに、研修医がどのような倫理的問題に直面し、どう対応しているのかを詳しく調べます。そしてそこから得られた知見をもとに、今後の研修医教育において倫理教育をよりよくするためのヒントを見つけていくことを目指しています。

[研究の目的]

当院で行っている「研修医の倫理的ジレンマ提出箱」という取り組みを通じて、研修医が現場でどのような倫理的な問題に直面し、どう対応しているのかを詳しく調べます。そして、その結果から、今後の研修医教育で倫理をより深く学べるようにするための知見やヒントを得ることを目的としています。

[研究の方法]

●対象者となる患者さん

2024年4月1日～2025年9月30日に、当院の臨床倫理の専門チームの院内活動である「研修医の倫理的ジレンマ提出箱」に提出されたレポートの対象となった方。

●研究期間：臨床研究審査委員会承認日～西暦2026年3月22日

(調査対象期間：西暦2024年4月1日～2025年9月30日)

●利用する検体、カルテ情報

下記の情報を「研修医の倫理的ジレンマ提出箱」に提出されたレポートより取得します。

- ① 研修医氏名
- ② 倫理的ジレンマに直面した患者さんの診療科名
- ③ 倫理的ジレンマに直面した日時
- ④ 指導担当医名
- ⑤ 倫理的ジレンマの場面
- ⑥ 倫理的ジレンマに対する研修医の考察
- ⑦ 臨床倫理の専門チームのフィードバック

●検体や情報の管理

研究により取得した情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は第13回日本臨床倫理学会年次大会で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

看護局 看護長補佐 岡田 知之

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913